



## 働き方改革を見据え、Cisco TrustSecテクノロジーを活用して、 基幹ネットワークをユーザーベースで通信制御できるセキュアな環境に刷新

株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)では基幹ネットワークの更新にあたり、ソフトウェア定義型セグメンテーションで管理するCisco TrustSecテクノロジーを、国内で初めて導入しました。これにより、社員などが利用する約5,000台の端末をサポートする、動的なユーザーベースの通信制御環境を構築し、運用しています。社内のどこからでも一貫したポリシーに基づいて社内ITシステムを利用できるようになり、社員の利便性や業務効率の向上につながるほか、セキュリティーの強化や運用管理の負荷軽減も実現しました。

- 【導入製品・サービス】**
- Cisco TrustSecテクノロジー (Cisco Identity Services Engine)
  - IBMネットワーク・インテグレーション・サービス



### 課題

- 社員の要望に対応してきた結果、ファイアウォールポリシーが複雑化し、管理しにくいネットワークになっていた
- 働き方改革の基盤となる、将来のクラウド活用も見据えた柔軟性の高いインフラストラクチャーの整備が求められていた

### ソリューション

- IPアドレスではなくソフトウェア定義型のセグメンテーション管理を行う、Cisco TrustSecテクノロジー
- IBMネットワーク・インテグレーション・サービスによる、設計、導入、移行支援

### 効果

- ユーザーベースで通信制御できる、社内のどこにいても適切な権限でつながるセキュアかつ柔軟なネットワーク環境を構築
- 協力会社用に特別な設定をするために使用していた、ネットワーク・スイッチ約30台が不要に
- 一元管理により権限の追加や変更が容易になり、運用ワークロードも軽減
- 性能は向上しつつもスペース、電力ともに30%以上の削減を実現

## 【お客様課題】

### 社員からの要望に対応し続けた結果、 つぎはぎだらけの管理しにくいネットワークに

フジテレビでは、視聴者により楽しんでいただける良質なコンテンツを安定して届けることを使命とし、放送以外にもVR(仮想現実)事業に乗り出すなど、時代の半歩先を見据えた企業活動を行っています。その業務を陰で支えているのがITインフラストラクチャーです。2017年にネットワークの更新時期を迎えた同社では、単なる機器のリプレースではなく、セキュリティーの向上や今後のクラウド活用、さらには柔軟な働き方の基盤ともなる、利便性・運用性の高いネットワークの構築を計画しました。

同社 技術局IT推進センター 業務IT推進部 推進担当部長の和泉 正憲氏は、「コンテンツの制作・配信に加え、放送以外の事業に乗り出す準備もしながら、社員のワークスタイルの変化にも対応していかなければなりません。BYOD(私的デバイスの業務利用)にも対応できる、セキュアで柔軟なネットワークが求められていました」と当時の課題を語ります。

フジテレビのグループ会社で、グループ全体のシステムやネットワーク事業などを担う株式会社フジミック ソリューションセンター ネットワーク技術部 エキスパートの宮田 彬彦氏は当時の状況をこう説明します。「ユーザーからはネットワークに関してさまざまな要望がありましたが、設計上根本的な解決ができないことも多く、その場しのぎの方法で対応せざるを得ませんでした。必要に応じてファイアウォールを増やしたり、回線を引いたりして、そのたびにどんどん運用や管理が煩雑になっていました」

「ネットワークの制約上、社員の要望に応えられなかったときに、社員が勝手にプロバイダーと契約して、シャドーIT(IT部門の管理下でない業務用IT)ができていたこともありました。この状態は看過できません。IT部門としても、禁止するだけではなく代替手段を用意する必要に迫られていました」(和泉氏)

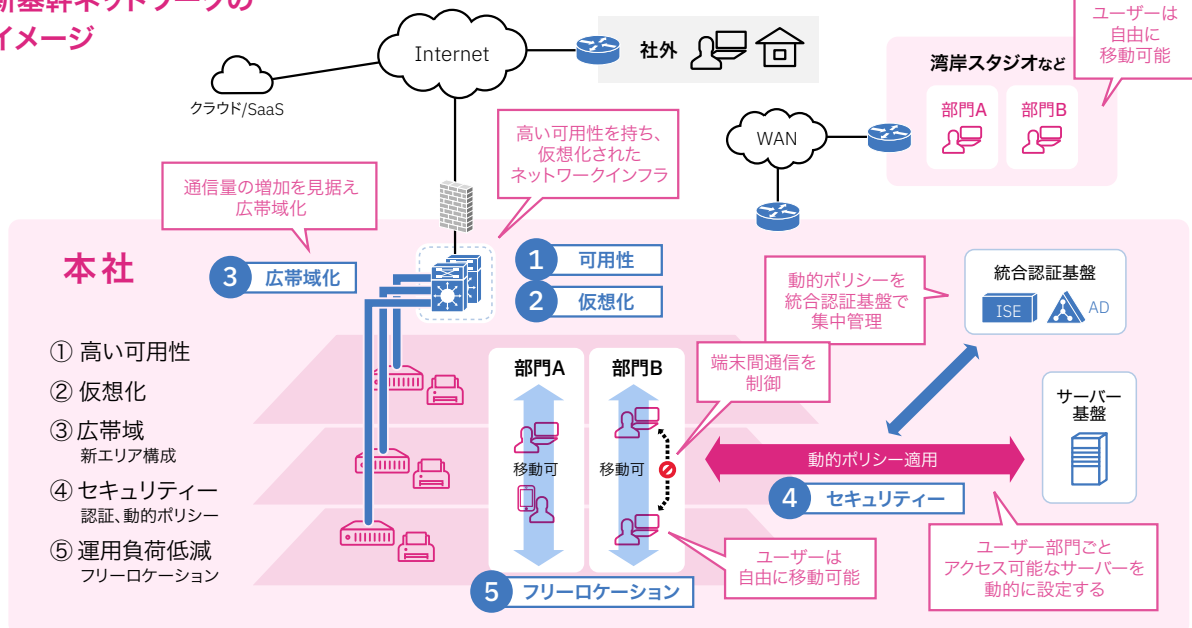
宮田氏は、「移行のタイミングはネットワークを大幅に刷新する絶好のチャンスだと捉えていました。安定した速いネットワークが重要なのももちろんですが、働き方改革や生産性の向上を視野に入れた、フジテレビらしい洗練されたネットワークを構築して、業績に少しでも貢献したいという気持ちがありました」と語ります。

全社を挙げて働き方改革に取り組み、さまざまなワークスタイルに合った効率的な仕事の仕方を模索しているところです。今回導入されたネットワークで、そのインフラが整いました。



株式会社フジテレビジョン  
技術局IT推進センター  
業務IT推進部長  
**黒沢 伸氏**

## 新基幹ネットワークのイメージ



## 【ソリューション】

### ユーザーベースの通信制御ができる Cisco TrustSecテクノロジーを国内初導入

社内のどこにいても、社員それぞれのセキュリティー・ポリシーで接続されるセキュアなネットワーク。セキュリティーと柔軟性という、一見相反する要件を実現するためのソリューションが、シスコシステムズのCisco TrustSecテクノロジーでした。このソリューションでは、ソフトウェア定義型セグメンテーションにより、IPアドレスではなく各端末のIDやログインしたユーザーのIDに基づいて通信制御を行います。各IDのポリシーは、ソリューションの核となるCisco ISE (Identity Services Engine) で一元管理され、運用が省力化されるメリットもありました。またシスコシステムズのVSS (Virtual Switching System) 技術を採用し、帯域幅が拡張され、かつ可用性の高いネットワーク環境が構築できます。

IBMはその設計と検証、導入・移行作業を担当しました。「前回のネットワーク更新の時に素晴らしい対応をいただいたので、今回のプロジェクトもIBMに依頼しました」(宮田氏) 今回採用したCisco TrustSecテクノロジーは国内初導入だったため、特に綿密な検証が不可欠でした。IBMでは稼働開始予定日の1年前、基本設計の段階からCisco TrustSecテクノロジーの検証を開始。不具合に関しては、シスコシステムズと密に連携し、実稼働を想定したテストを重ねました。

移行にあたってはテレビ局特有の要件がありました。「今はテレビ番組以外にネットニュースなどもあるため、夜中でも容易にネットワークを止めることができません。移行のためのダウン時間は限りなく短くする必要があります。周到的な準備のもと、サーバーとクライアント側のスイッチを2段階にわたって移行するスケジュールを組みました。結局、基幹となるネットワークを移行するのに2時間程度止めただけで、最小限のインパクトで済みました」(和泉氏)

宮田氏は「国内初の試みのため、苦労はありました。ただプロジェクトでは何らかのトラブルは付きものではないでしょうか。シスコシステムズの修正待ちの局面では、スケジュールを変更して先に予定していた作業に取り組むなど、IBMの対応は大変満足できるものでした」とプロジェクトを振り返ります。

さまざまな課題はあったものの、半年にわたって20回以上に分けて行われた移行作業は、一度の手戻りもなく、スケジュール通りに完了しました。

## 【効果/将来の展望】

### 管理性が向上したセキュアなネットワークで、 働き方改革の基盤を整備

和泉氏は、「当社では、社員は決まった机でデスクトップパソコンを使って仕事をしていました。セキュアな有線と無線のネットワークが整備され、新たにノートパソコンを配布したことで、例えば会議室にパソコンを持ち込んで資料は印刷しないといった改革の第一歩が始まっています」と社内の状況を語ります。

管理業務も大幅に軽減されました。「ユーザーの通信制御情報は、専門知識がなくても管理画面から容易に修正できます。従来、各協力会社さん用にスイッチとパソコンを置いてファイアウォールを構成し、イントラネットの一部のみにアクセスできるように設定していました。今ではそのスイッチが30台ほど不要になりました」(宮田氏)

「メディア業界では、一般企業の業務では普通アクセスしない、掲示板やウェブサイトなどを閲覧する必要が生じることもあります。ウィルス感染のリスクも高まりますが、新しいネット

マネージャーとして全体を見ていて、IBMにお願いして良かったと思っています。今回の新しい技術へのチャレンジは、IBMの知識やノウハウ、遂行力がなければできなかったでしょう。



株式会社フジテレビジョン  
技術局IT推進センター  
業務IT推進部  
推進担当部長  
**和泉 正憲氏**

働き方改革や生産性の向上を視野に入れた、フジテレビらしい洗練されたネットワークを構築して、業績に少しでも貢献したいという気持ちがありました。



株式会社フジミック  
ソリューションセンター  
ネットワーク技術部  
エキスパート  
**宮田 彬彦氏**



左から宮田氏、黒沢氏、和泉氏

ワークでは、イントラネットと分離した、インターネットだけ見られる端末を置くことができ、より安全な環境が整いました」(和泉氏)

また、最新の機器になったことで、性能は向上しつつもスペース、電力とも30%以上の削減となっています。

和泉氏は「マネージャーとして全体を見ていて、本当にIBMにお願いして良かったとつくづく思っています。今回の新しい技術へのチャレンジは、IBMの知識やノウハウ、遂行力がなければできなかったでしょう」と評価しています。

「現在、オンデマンドのコンテンツなどはすでにクラウドを活用していますが、今後は業務システムのクラウド化も検討していくことになります。今回の刷新で、その準備が整いました」(和泉氏)

フジテレビ 技術局IT推進センター 業務IT推進部長の黒沢 伸氏は、「今、全社を挙げて働き方改革に取り組んでいます。単に残業を減らすということではなく、さまざまなワークスタイルに合った効率的な仕事の仕方を模索しているところです。今回導入されたネットワークで、そのインフラが整いました。ノートパソコンの配布もその一環ですし、今後はBYODも視野に入れていきます」と将来の展望を語ります。

全社のネットワークが刷新され、例えば本社とは別の建物にあるスタジオにいる社員が、本社と同じポリシーでネットワークに接続し、仕事ができるようになりました。そう遠くない未来に、フジテレビ社員の働き方が大きく変わりそうです。



フジテレビ

## 株式会社フジテレビジョン

〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号  
<http://www.fujitv.co.jp/>

日本のキー局の1つとして、良質のコンテンツと安定した放送の提供を一番の使命と考え、常に時代の半歩先を見据えた、良質で夢あふれるコンテンツを創り続けることを目指しています。放送だけでなくVR(仮想現実)を用いて自治体と連携するなど、新たな取り組みも進めています。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2018

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2018年6月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、およびibm.comは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについては[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。